

22年センター試験志願者数は、 2年連続増の54.6万人前後か!?

—出願締め切り時点の志願者数は52万6,406人—

旺文社 教育情報センター 21年10月14日

来春の高校卒業者数は平成4年以来、18年ぶりの増加が予測される中、22年センター試験の出願受付が、10月14日締め切られた。大学入試センターから発表された、同日17時現在の出願状況は以下のとおりである。

●出願総数 526,406人(524,478人; +1,928人、0.4%増)

<内訳>

○高等学校等卒業見込者 429,651人(426,931人; +2,720人、0.6%増)
(高等学校等経由出願)

○高等学校卒業者等 96,755人(97,547人; -792人、0.8%減)
(個人直接出願)

(注) 1. ()内は、前年締め切り(20年10月14日17時現在)の志願者数、及び増減数と割合を示す。

2. 21年10月14日の消印まで出願を受け付ける。

3. 重複出願等の確認、試験場の指定等を行った後、確定志願者数等の統計資料や試験場一覧が発表される(11月末予定: 21年確定志願者数は543,981人)

- 最終的な志願者数は、今後消印有効分の2万人前後が加わり、54万6,000人前後とみられる。これは21年の54万3,981人(確定)より0.4%程度多く、2年連続の増加となる。
- 志願者増の要因としては、センター試験出願の高等学校等卒業見込者(現役)の増加(21年より2,720人、0.6%増)を裏打ちする、大学への現役志願率の高まりや、私立大のセンター試験参加増(7大学24学部増の494大学1,404学部。21年9月3日現在)と短大の参加増(6短大増の160短大。同)に加え、「新型インフルエンザ」への“リスクヘッジ”(危険防止策)としての出願などがあげられよう。そして、18年ぶりの高卒者数の増加(21年より約4,000人、0.4%増を予測)が、現役生の増加につながっているとみられる。
また、「新型インフルエンザ」対策として、個別試験も含めた受験機会の確保から、センター試験利用入試を視野に入れた出願も少なくないとみる。
- 一方、高等学校卒業者等(浪人及び高等学校卒業程度認定試験合格者等)は792人(0.8%)減で、16年から7年連続の減少である。浪人の減少は、一部の難関大学・学部を除き、全体としてはさらに“広き門”となっていることに加え、経済情勢の悪化などで浪人を生む素地が一段と縮小していることによる。

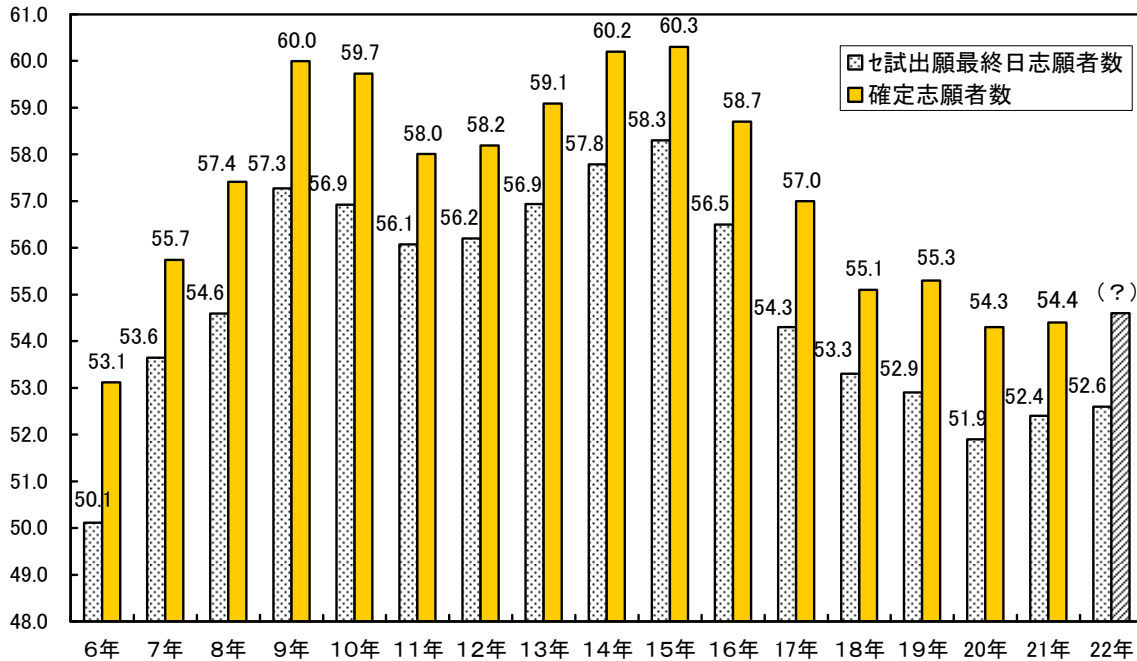
<注 目！:新型インフルエンザ対応>

22年センター試験の実施日

●本試験=22年1月16日(土)・17日(日) ●追試験=22年1月30日(土)・31日(日)

(本試験は、当初の予定通りに実施。追試験は1週間延期し、本試験の“2週間後”に実施)

(万人) ●セ試志願者数(出願最終日&確定)の推移 (図1)



(図2)

(大学・学部/短大) ●センター試験を利用する私立大&短大;大学・学部、短大数の推移

